

特集：城下町に暮らす人々に出会いました

岩槻で旅情を味わう



岩槻城址公園の菖蒲池に架かる「ハツ橋」。



1671年に城主の阿部正春が設置した岩槻城の鐘楼「時の鐘」。その音色は9里離れた江戸の地まで聞こえたとか。(岩槻駅より徒歩約12分)



三の丸内の城主居室の構えの門だといわれている「岩槻城城門(黒門)」。



芝生が一面に広がる「ピクニック広場」とアスレチックや遊具で遊べる「わんぱく広場」があり、子どもも元気に遊べます。(岩槻城址公園内)

さいたま市に新たに加わった歴史と文化を誇る岩槻区。合併を機に、ほかの区からも市民が訪れるようになりました。今号の特集は、普通に歩くだけでは気づかない岩槻区の魅力を、城下町でまちづくりに取り組む人々とともにご紹介します。

城下町をしっとり気分で歩く

岩槻を歩いていると、江戸時代のまち並みを感じる小さな発見があります。「江戸小路」「大手口」などの旧跡標柱、郷土にまつわる名所や史跡が描かれた歩道の敷石、地場産業の人形をあしらった街灯やガードレール……。ここで暮らす人々がまちの歴史を愛し、暮らしを楽しむ気持ち伝わってきます。

岩槻駅から歩いて約25分のところに豊かな緑に囲まれた「岩槻城址公園」があります。ここは昔、岩槻城の城郭があった場所。今では多くの人々が憩いを求めて訪れます。

室町時代の後半に築城されたといわれる岩槻城は、江戸時代には江戸北方の守りの要として幕府要職の譜代大名の居城となりました。明治6年に廃城となり、今は残念ながら城の姿を見ることができませんが、園内に移設された岩槻城門(黒門)と裏門、残された土塁、空堀などから、約400年続いた岩槻城の面影をたどることができます。

黒門を過ぎて、ゆるやかな坂道を下っていくと、やがて朱塗りの「ハツ橋」が印象的な菖蒲池が見えてきます。春には約800本の桜が咲き誇り、夏には菖蒲、秋には紅葉と、四季を通じて美しい景色が人々を魅了します。

市民が観光ガイドでおもてなし

ボランティアで観光ガイドを行う市民がいます。その名も「岩槻観光ボランティアガイド会」の皆さん。「岩槻を訪れた人に、歴史に彩られた伝統や文化の薫るまちを十分楽しんでもらいたい」と、おもてなしの心で案内しています。

岩槻観光ボランティアガイド会の皆さん。



案内をご希望の方は5人以上で、15日前までに「さいたま観光コンベンションビューロー」(647-8339)へお申し込みください。費用は1人200円です。長年住んでいる市民でも知らないような、とっておきのエピソードが聞けますよ。